

第 2 回

地質図作成作業部会

議 事 項 目

1. 開 会 の 辞
2. 議事手続規約の採用
3. 議長・副議長の選出
4. 議事項目の採用
5. アジア・極東地域地質図の準備状況に関するインド地質調査所長の報告
6. 他地域の地質図作成の進捗状況に関する万国地質学会世界地質図委員会会長の報告
7. アジア・極東地域地質図に採用する投影に関し国際製図機関 (agencies) と協議した結果についての国連製図部長の報告
8. 各国地質図の編さんについての進捗状況報告
9. 将来の作業に対する勧告
10. 作業部会の報告



議長席

左から ECAFE 事務局 Mr. U. Nyun, Dr. P. S. Lokanathan
黒川工業技術院長

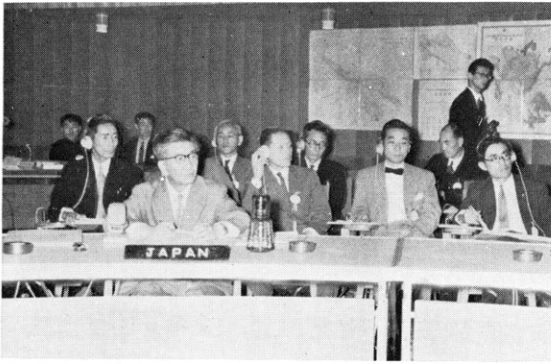
開会にあたり

常務委員ロカナサン博士 (Dr. P. S. Lokanathan) は代表に歓迎の言葉を述べた後、第1回会議以後1ヵ年半にわたる ECAFE 地域広域地質図の準備状況について報告した。次いで万国地質学会と作業部会とによつて投影調整者 (Coordinator of the project) として指名されたクリスナン博士 (Dr. M. S. Krishnan) がインド地質調査所長の地位を退いたことを惜しみ、なおこの作業はインド地質調査所新所長ソンデイ博士 (Dr. V. P. Sondhi) の指導のもとで継承されることを確信すると述べるとともに、投影に対するインド地質調査所の労に対し、インド政府に謝辞を述べた。

次に日本政府を代表して通産省工業技術院長黒川真武博士の歓迎の辞があり、そこで、作業部会で行われてい



開 会 式



日本代表団席 代表 兼子 所長
後方左から 久野教授、齋藤課長、河野部長、平山課長、
金原部長、安芸氏（資源調査会）

る作業は意義深く、地質図が完成されれば、鉱産資源、農業、林業、土木工事、工業にとつて価値があるばかりでなく、科学、文化の進歩に多大な貢献をなすから日本政府はできるかぎり協力し、日本地質調査所は喜んでその責務を果すであろうと述べた。

ソンデイ博士は日本政府へ感謝の議決を提案し、この提案はダビッド・アンドリュース博士（Dr. David Andrews U. S. A.）によつて支持され、拍手をもつて感謝の議決がなされた。

議事手続規約の採用

作業部会は議事手続の規約として、国連アジア極東経

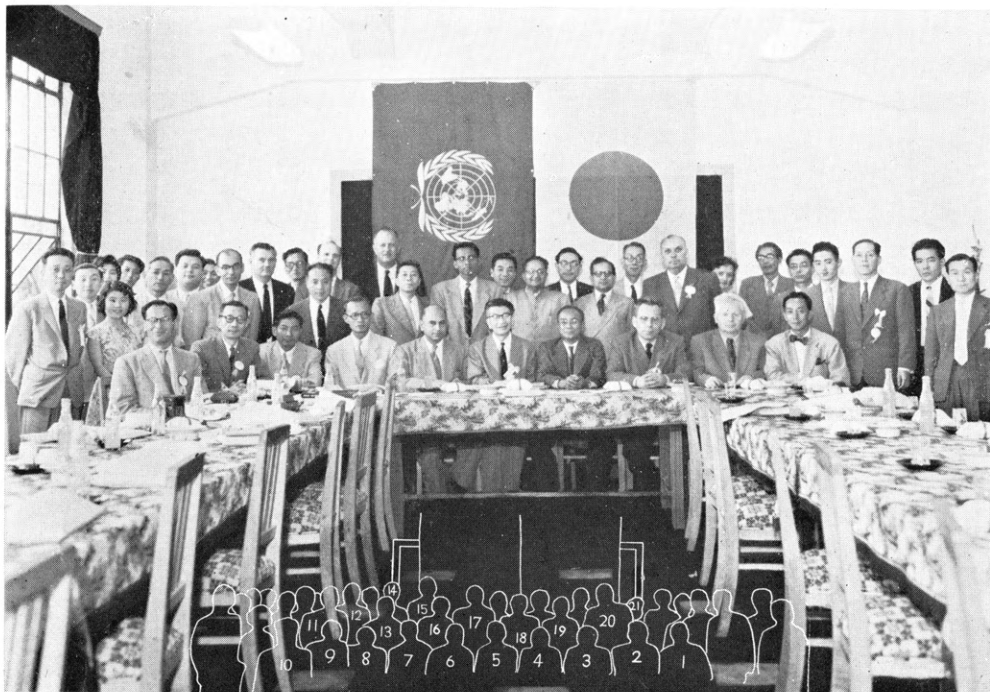
済委員会の規約を採用した。

議長・副議長の選出

ブラバス氏（Mr. S. Buravas・タイ国）はソンデイ博士（インド）を議長として推薦し、ラヌクスモ氏（Mr. S. Ranukusumo・インドネシア）がその提案に賛意を表し、ソンデイ博士は拍手を以て議長に選出された。またラヌクスモ氏は兼子所長を副議長として選出することを提案し、ヂングラン博士（Dr. A.G. Jhingran・インド）はその提案に賛意を表し、兼子所長は拍手をもつて副議長に選出された。次いで前表に示したような暫定的議事項目が採用された。

ここでソ連代表は中共とモンゴリアの地質学者がこの作業部会に参加するよう招請されなかつたことは残念であると述べたが、これに対し中国代表は、国民政府（The Republic of China）代表は、全中国人（entire Chinese people）の利益を代表する資格のある地質学者からなつていと述べた。

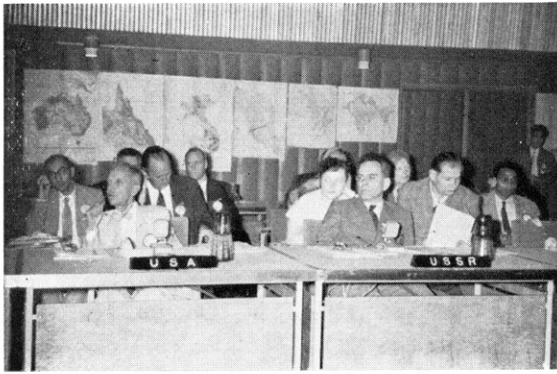
また作業部会は万国地質学会世界地質図委員会会長ブロンデル氏（Mr. F. Blondel）が病気のため会議に参加できなかつたことを惜しんで、作業部会の地質学者一同は同氏の出席できなかった点を残念に思う旨のメッセージを送ることを決めた。



写真説明

1. ECAFE 事務局 Dr. C.Y. Li
2. ソ連 Mr. A.N. Assovski
3. ソ連代表 Mr. N.A. Belyevski
4. ギルマ代表 Dr. Ba Thi
5. 日本代表 兼子 所長
6. インド代表 Mr. V.P. Sondhi
7. ECAFE 事務局 Mr. U Nyun
8. タイ代表 Mr. Semen Buravas
9. 国府 Mr. Biq Ching-chang
10. 韓国代表 Dr. Ok Joon Kim
11. アメリカ Mr. L. Nahai
12. アメリカ Mr. D. Woolf
13. 国連 Dr. Te-Lou Tchong
14. アメリカ Dr. G. Corwin
15. アメリカ Mr. E. Irving
16. 日本 小林教授
17. タイ Mr. P. Komalarjun
18. インド Mr. A.G. Jhingran
19. インド Mr. R.N. Vasudeva
20. ソ連 Mr. V.E. Shmiger
21. ソ連 Miss. Sirotna

地質調査所訪問の一行



左 アメリカ代表団
代表 Mr. David Andrews
後方 Mr. L. Nahai
Mr. E. Irving
Dr. G. Corwin

右 ソ連代表団
代表 Mr. N.A. Belyaevski
後方 Miss. Sirotna
Dr. A.N. Mamin
Mr. A. N. Assovski

域内地質図等の進捗状況

最初に 作業部会は次のような報告を受けた。

- 1) インド地質調査所長によつて準備されたアジア・極東地域の広域地質図の準備についての報告
- 2) 世界地質図委員会会長によつて準備された他の地域の地質図の作成進捗状況についての報告
- 3) アジア・極東の広域地質図に対して採用すべき投影に関する国際製図機関 (Agencies) との会合についての報告

次に 各国代表から ECAFE 地域広域地質図に対する各国の準備状況が報告された。

アフガニスタンでは地質調査部が設立され、アジア極

東の広域地質図作成に協力して、自国の地質図を完成するため作業を開始した。

アフガニスタンとネパールの両国では、地質図作成のため、国連の地質学者が同国地質学者と密接に協力して作業をしている。

ボルネオ英領地域・セイロン・インドおよびインドネシアは 200 万分の 1 地質図をそれぞれ完成し、既にインドの調整者に送付した。

日本、ビルマおよび韓国の地質図も同様の縮尺で完成された。なお中国の地質図は 1956 年末までに完成される見込みである。

マレーとタイ国では両国の地質学者が密接に協力して境界領域を調査し、2~3の重要な発見がなされた。すなわち、カンブリア紀の化石トリロバイト (Trilobites)、および恐らくオルドビスシアないし下部シルリア紀に属する化石グラプトライト (Graptolites) がマレーに隣接するタイ国の西海岸で発見され、トリアス (Triassic) の石灰岩がタイ国で発見された。現在、少なくとも3つの異なつた地質時代の石灰岩がタイ国にあると云い得る。すなわち、中部オルドビスシア、二畳紀およびトリアス紀のものである。さらにジュラ紀の石灰岩 (Kamawkala 石灰岩) がビルマに隣接するタイ国国境で発見された。

フィリピンでは有効な資料によつて、縮尺 75 万分の 1 の地質図を編さんし、1953 年 マニラで行われた第 8 回 汎太平洋学術会議に提出された。この地図はその後の資料で修正され、縮尺 200 万分の 1 に編さんされた。

ホンコンでは 1948 年に縮尺 1:84,480 の地質図が出版

ECAFE 代表団に説明する 兼子 所長 (調査所会議室)



佐藤 物理 探査部長の説明



され、縮尺2万分の1の地質図も完成、出版されようとしている。

他の地域でも、既存の地質図の修正が行われており、新地域地質図の準備もされている。

1. アフリカでは1952年に縮尺500万分の1の地域地質図を出版し、つづいて地域地質構造図が完成された。
2. オーストラリア政府の鉱物資源局長は、万国地質学会によつて、オーストラリアとオセアニアの地域地質図の調整者 (coordinator) として指名され、このような地図の準備のため予備的な会合が行われた。
3. 南アフリカでも、新地域地質図の用意のために予備作業がなされている。
4. ソ連では縮尺500万分の1の地質図が既に完成されている。

投影法について

第1回の会議につづいて今回も討論された。

アジア・極東に対する広域地質図に用いられる投影法について、国連の製図部門によつて寄せられた質問状に答えた大多数の国際機関(National cartographic agencies)は、角度のゆがみがないこと、同様な投影法による地図が存在しているなどの理由で、フランス提案のランペルトの正積円錐投影法(Lambert Conformal Conical Projection)を選んだ。

ソ連提案の斜軸投影による正主巨方位図法 (Oblique Azimuthal Equidistant Projection) を採用しようとした



左から フランス代表 Mr. E. Saurin
国府代表 Mr. Chia-Chin Shao
ビルマ代表 Dr. Ba Thi

小数の国は、地域的のゆがみが少ないという利点を力説した。しかし作業部会では基礎の地図を描くために、製図作業を行う場合には、ランペルトの正積円錐投影法によって地図を製図する方がはるかに容易であると考えている。

作業部会は製図に関する国際協力の問題について、第21回経済社会会議に採用された決議を重要視し、特に1958年東京におけるアジア・極東に対する第2回国連地域製図会議の開催を希望した。

作業部会の勧告

次のような勧告が作業部会によつてなされた。

1. 地図の準備と出版に対する財源について

1954年11月タイ国バンコックで行われた最初の会議で、作業部会は広域地質図の準備と出版には計£15,000~£16,000必要であろうと算定し、当地域の各国政府は

標本室見学の一行

左から 平山課長、韓国代表 Dr. Ok Joon Kim、斎藤課長、金原部長
インド代表 Mr. V. P. Sondhi、砂川技官、インド Mr. A. G. Jhingran



物探実験室でメモをとるソ連 Mr. A. N. Assovski



その経費を寄付すべきであると勧告した。その後タイ国政府はすでに 1,333 支出しており、作業部会の最初の会議によつて勧告されたように、世界地質図委員会会長へ送られた。インド政府はその目的のために 2,500 の支出を認可した。

作業部会は他の国々も早期に寄付してもらいたい希望を述べた。

2. 地質図完成の目標期日について

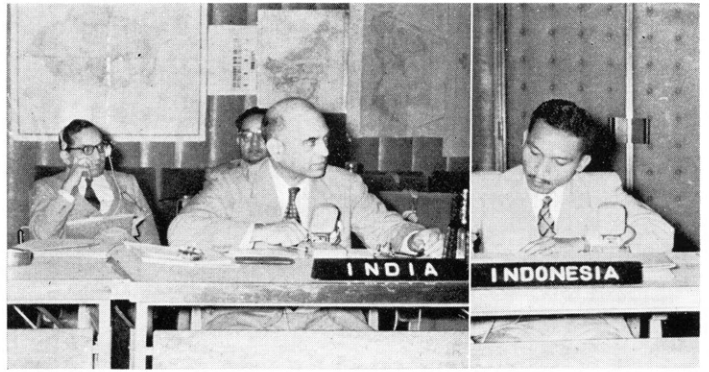
地域地質図をできるだけ早く完成させるためにコンパイル(編図)の基礎として用いられる縮尺 200 万分の 1 の地質図がすべての国で完成され、その地質図が 1956 年末までに調整者のインド地質調査所長に到着するよう送らなければならない。また期間内に地質未調査地域がうめられないならば、調査の完了を待たず、未調査地域を空白としたままの地質図を提出すべきである。

3. 作業の調整について

調整者から委員を通じて要求があるときは、いつでも広域地質図の編さんに関する対比の問題について仕事をするために、その資格ある地質学者に協力してもらうよう、また参加国はできるだけ充分かつ迅速に調整者の必要を満たすため準備をすることができるよう、解決すべき問題の性質、大体の期間、彼によつて要求された職員の詳細をできるだけ前もつて知らせるためにあらゆる努力をすべきである。

4. 地質調査の精度を示す索引図について

作業部会は各国の地質図が精度や確実性の程度の点で



インド代表团
代表 Mr. V. P. Sondhi
後方左 Mr. R. N. Vasudeva
その右 Mr. A. G. Jhingran

インドネシア代表
Mr. Surodjo
Ranukusumo

いろいろ異なっている。「すなわち、ある地域では、その内容が予察によつて得られた程度のものであつたり、他の地域では、詳細なシステムティックな地質図が作られている」ために精度に関する何かの指標が図上に示されることが望ましい。

したがつて、作業部会は、各国が地質図を調整者に提出する場合、地質調査の状態を示すインデックスマップ(索引図)も併せて送つて欲しいと勧告した。

5. 地図の投影

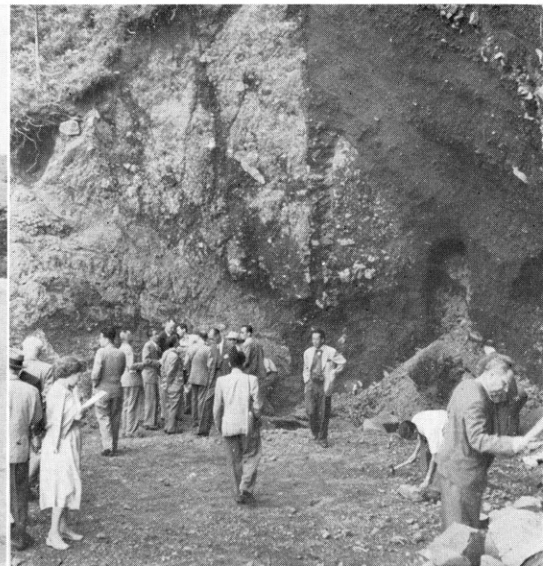
Oblique Azimuthal Equidistant 投影法はアジア・極東の広域地質図には科学的利点のあることは認めるが、しかしこんどの地質図には実際的な理由のため Lambert Conformal Conical 投影法を用いることにしたい。

6. 活火山を他の第 4 期火山と区別すること

作業部会は活火山の熔岩と砕屑物を、地質図において他の第 4 期の噴出岩から区別することが望ましいと考え

箱根峠における一行

箱根長尾峠見学の一行





オランダ代表
Mr. L. J. Goedhart



タイ国代表团
右代表 Mr. Saman Buravats

た。活火山の岩石の分布がせまいために地図に示すことができないならば、少なくとも、その火口の位置が、特殊な記号によって地図に示されなければならないことが勧告された。

作業部会は「活火山」に対し、万国火山学会の定義を採用した。すなわち、「活火山は有史時代に噴出したと記録されているもの、または現在噴気活動を行つてゐる火山を意味する。」

7. 広域鉱物分布図の編さんについて

地域地質図作成の目的の1つは、地域内各国の鉱物賦存地域の発見を助長することである。したがつて、その作成と共に地域の鉱物生成時期や鉱物区を示す広域鉱物分布図とその説明書を編さんすることが望ましいと考えられる。そこで各国の地質図を調整する場合、地質図と同一の縮尺をもつた地図にその国の鉱物分布を示したものの（生成時期とか鉱物区を記入しない単なる分布図）を付随するよう勧告した。

単なる鉱物分布図の準備からこの地図に付す説明書の

準備、さらにその地域の鉱物生成期や鉱物区を示す地図を編さんするまでにはかなりの時間と努力が必要であろうけれども、早く作業を始めなければならないと考えられたので、当地域の鉱物資源の分布を示す地図の編さんおよび出版に関する案が親委員会の作業番組に既に含まれているのである。

従つて実行に当つての問題の重要性と編さんの準備に必要な時間の点などについて、早急に計画がねられなければならないということを作業部会は勧告した。

それで作業部会は、特別委員会（日本・インド・インドネシア3カ国の地質調査所長によつて構成されている）が事務局員を助けてその計画を進め、地域鉱物分布図の準備のために基本的規約を作るよう要請した。結局、この特別委員会は、この地図作成準備の責任を果すこととなり、さらに、この広域鉱物分布図のための基本的規約の準備やこの地図の編さんにさいして、各国の権威者の意見を求め、ソ連やアメリカ合衆国のような地域以外のEC AFE 参加国の地質機関から忠告を求めるべきことを勧告した。

地域グループの設立

作業部会はそれぞれの地域に適用された特殊の凡例を統一するために地域別（国府・韓国・フィリッピン・日本グループとそれらを除くグループ）に分けられた。

したがつてこれらの地域グループは合議し、EC AFE 地域の地質図の凡例を作るため、特に時代区分や岩層の単位に関して、基本的な標準を定め、それ等の結果を作業部会に提出した。

北海道昭和新山見学の一行

左から オランダ Mr.L.T. Goedhart、兼子所長、インド Mr.A.G. Jhingran
三井金属 西脇氏、ホンコン Dr.S.G. Davis



所長招待レセプション

(東京般若園)

